

情報かわら版

7



今月の表紙：そば畑（小千谷市）

特集

新潟県拠点「みどり戦略取組グループ」 連載第3回

- ・新潟県農業大学校で「みどり戦略」の講義を行いました
- ・有機農産物生産者紹介 ～ させ農園（新発田市）～

トピックス

- 新潟県の畜産女子の取組を紹介します！～ 宮野牧場（新発田市）～
- 第5回北陸農政局食育活動表彰 北陸農政局長賞
新潟県内受賞事例のご紹介 ～アルビレックス新潟・高田農業高等学校～
- 小学生が「ルレクチエ」の袋かけ作業に挑戦！
- 需要に応じた米生産の部屋 ～ 加工用米等取組計画の変更手続きについて ～

お知らせ

- 「夏の熱中症等対策声かけ期間」が始まります
- 今年も「モ〜っとミルクちゃん」が津南ひまわり広場に参上！

電子版はこちら



新潟県拠点みどり戦略取組グループでは、地域で有機農業に取り組む生産者の皆さまを取材し、日々の工夫やこだわり、農業にかける思いなどを連載形式でご紹介していきます。

[次ページへ](#)

今月は、新発田市の **させ農園株式会社** の取組をご紹介します。



みどり情報

新潟県農業大学校で「みどり戦略」の講義を行いました



新潟県拠点では、令和8年6月24日、新潟県農業大学校「就農実践技術コース」の受講者を対象に、「**みどりの食料システム戦略**」と「**+みどり計画**」に関する講義を行いました。今後、県内で就農や農業法人等への雇用就業を目指す受講者の皆さんに、持続可能な農業について理解を深めていただきました。

講義では、気候変動や農業者の減少、資材の輸入依存など、食料・農林水産業を取り巻く課題と、それらの解決に向けて生産力向上と持続可能な農業の両立を目指す国の取組「**みどりの食料システム戦略**」について紹介しました。

また、化学農薬・化学肥料の使用低減や有機農業の拡大、食品ロスの削減、スマート農業の推進などの取組について説明し、生産から消費まで一体となって取り組むことの重要性を説明しました。



▲ 講義の様子

さらに、北陸農政局の「**+みどり計画**」の概要を紹介し、地産地消や食品ロス削減など、身近な行動から環境に配慮した取組を実践することの大切さについて呼びかけました。講義の最後に受講者の皆さんから、「**+みどり計画**」の一環である「わたしの『+みどり宣言』」をしていただきました。

／ 受講者の『+みどり宣言』をご紹介します！ ／



▲ 受講者の皆さんと一緒に『+みどり宣言』

わたしの『+みどり宣言』
私は、
地産地消を
目指します！
+みどり計画

わたしの『+みどり宣言』
私は、
地産地消と有機肥料を
使ったエコファーマー
に取り組みます！
+みどり計画

わたしの『+みどり宣言』
私は、
地域の農業を
守ります！
+みどり計画

わたしの『+みどり宣言』
私は、
ゴミを減らして
環境負荷低減を
図ります。
+みどり計画

今回の講義が、これから農業に携わる皆さんにとって、持続可能な農業や環境に配慮した取組について考え、実践するきっかけとなれば幸いです。

させ農園株式会社（新発田市）



▲ 佐瀬 鉄栄オーナー



▲ アイガモたちと電気柵本体
(左手前の赤い機材)

「させ農園」のご紹介

させ農園は、雪と山からの湧き水に恵まれた新発田市で、有機栽培・特別栽培米による米づくりにいち早く取り組んできました。

なおし

・代表者：佐瀬 直司 代表責任者

てつえい

(お話を伺った方：佐瀬 鉄栄 オーナー)

・品 目：有機JAS認証米コシヒカリ、特別栽培米菊水(酒米)等、もち加工品、野菜他

・従事者：家族5名、社員1名

・ホームページ：<https://sase-nouen.jp/homepage/>



※鉄栄さんは、有機登録認証機関「赤とんぼ」に所属し、「にいがたオーガニックフェスタ」にも深く関与されています。

なぜ有機JAS？

食品添加物や農薬等が使用されている食品があふれている今、未来を担う子供たちに美味しく安全安心なお米を届けたい思いからです。



▲ アイガモにより
除草された水田



▲ 電気柵を張られた
有機のほ場

こだわり・工夫

- ・有機に取り組むうえで一番困ったことは、やはり雑草の草取りでした。作付け前のどのタイミングでどのように代かきを行えば雑草を抑えることができるのか、そしてどの段階で除草機を入れると効果が高いのかを検証しながら、これだという作業体系を実施しています。
- ・平成7年頃からアイガモを導入し有機のほ場で除草をしてもらっています。アイガモの仕事ぶりは大したもので見事に雑草を抑えることができます。働き者のアイガモを獣害から守るため一般的な設備より高圧な1万ボルトの電気柵を設置しています。

今後の展望等

米以外もチャレンジしています。構成員である孫が有機野菜に取り組み、県内レストランに提供しています。

～これから有機農業を目指す生産者へ～

経験者などに相談したり、関係機関の研修などに積極的に参加することで、知識・技術を習得していただきたいです。



▲ 有機JAS認証米



▲ 玄米もち

新潟県の畜産女子の取組を 紹介します！

11

規模拡大の夢 実現に向けて

新発田市上羽津で宮野牧場（酪農）をご家族で取り組まれている宮野一香（かずか）さんにお話を伺いました。宮野牧場は、一香さん、佑（たすく）さんご夫婦とご両親の4人で家族経営されています。小学1年生と4歳のお子さんの6人家族です。

現在の飼養規模

畜舎には搾乳牛が31頭、乾乳牛が4頭、育成牛が9頭います。この他に新潟県妙法育成牧場に8頭委託しています。

酪農に携わるきっかけ

結婚するまでは東京で酪農とは関係ない職場で働いていました。結婚を機にこちらに来て9年目です。

初めての酪農に接した感想

間近で牛を見たことも無かったので、大きさと体温がすごく高いなというのが第一印象でした。

それまで全く関わりのなかった食べ物（牛乳）を生産するという仕事を知れたことが一番です。牛のお産を見ることで子牛が生まれる瞬間は生命のありがたさを感じました。

作業の現実

私は搾乳をメインに作業していますが、牛の移動など力仕事の難しいところは男性に任せてしまっています。ただ、私も牛を観察して悪いところがないか、元気はあるかなど意識して見るようにしています。



一香さんと佑さん

子育てとの両立

今まさに真っ只中で、子供の世話と作業の二刀流でバランスをとることが難しいと日々思っています。朝と夕方に作業が集中するので、空いた時間を有効活用して学校行事や休憩などに充てられる自由度が高いところはいいと感じています。

——— 佐さんのコメント

この9年間、子育てを頑張りながらも私と飼育などのやり取りができるまでになってくれて頼もしいです。

情報交換

地域内の酪農家同士（女性）でお昼に集まることもあります。先輩から子育てや地域のことを聞き参考になると実感しています。夫も集落などの集まりで出た情報を共有してくれるのでありがたいです。

畜産に興味がある人へ

畜産は力仕事みたいなイメージがあると思いますが、「女性でもできることはあるよ」って伝えたいです。

今では、自分がやれることも増えてきたなと感じています。

規模拡大とともに若い人が入りやすい



環境（スマート化）作りもしていくので、是非、畜産業界に入ってきてほしいです。

今後への想い

これまで同様、やるべきことを丁寧にやり、また、県内外の畜産農家と交流の輪を広げていきたいです。そのために、より時間を有効に使えるようにしたいと考えています。

これから生活費もよりかかるので規模拡大できたらいいなと思います。

——— 佐さんのコメント

経営面からみて規模拡大は必須です。飼養頭数を今の3倍くらいまでにしたいと考えています。

お忙しい中での取材ありがとうございました。規模拡大に向けた補助事業もありますので、夢が叶えられるようバックアップできればと思います。（編集者）

畜産女子のシリーズは、令和7年3月号以来のお目見えです。バックナンバーは事例集にまとめてありますので、右の二次元バーコードからご覧ください。



第5回北陸農政局食育活動表彰

～ 北陸農政局長賞 新潟県内受賞事例のご紹介 ～

令和8年6月18日、第5回北陸農政局食育活動表彰の表彰状授与式が開催され、新潟県内からは、株式会社アルビレックス新潟(新潟市)と新潟県立高田農業高等学校 生物資源科・農業生産コース(上越市)の2団体が北陸農政局長賞を受賞しました。



北陸農政局長賞受賞者の皆さま（前列左端：アルビレックス新潟、前列左から2・3人目：新潟県立高田農業高等学校）

株式会社 アルビレックス新潟

「アルビde食育・健康づくり」プロジェクト

「朝食」「自炊」「減塩」をキーワードに、行政や教育機関と連携した食育活動を展開。朝食レシピコンテストや選手による啓発動画の制作、農作業体験などを通じて、農業・食・健康のつながりをわかりやすく発信し、幅広い世代への食育の普及に取り組んでいます。



「谷口農園いくとびあ出張所」での野菜の収穫



食育啓発動画では大学生が考えた朝食レシピを選手が調理

新潟県立高田農業高等学校 生物資源科・農業生産コース

野菜づくり農業体験交流、手づくり食育絵本の制作、こども園で絵本の読み聞かせ

高校生が企画・運営し、子どもたちとの野菜づくりや収穫体験、食育絵本の制作・読み聞かせなど、楽しみながら学べる体験型の食育活動を実践。また、地域住民を巻き込んだ幅広い食育の普及にも積極的に取り組んでいます。



野菜畑から生まれた食育絵本



食育絵本読み聞かせ

受賞事例の詳細は、以下のURL又は右の二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/news/press/syouan/attach/pdf/260514-2.pdf>





小学生が「ル レクチエ」の袋かけ作業に挑戦！

6月16日、新潟市南区の白根グレープガーデンで、大鷲小学校4年生の児童たちが、「ル レクチエ」の袋かけ作業を体験しました。5月下旬に行った摘果作業に続く体験で、地域の特産果実を育てる大切な作業に挑戦しました。



▲ 摘果後に大きく育った「ル レクチエ」

なぜ袋かけをするの？

袋かけは、病気や害虫、果実の汚れ・傷を防ぎ、色鮮やかな「ル レクチエ」を育てるために欠かせない作業です。



▲ 一つひとつ丁寧に袋かけを行う児童たち

児童たちは、白根グレープガーデンの笠原さんから袋かけの方法を教わり、実を一つひとつ丁寧に扱いながら作業を進めました。専用の袋を果実にかぶせ、袋の針金を軸に巻き付ける作業は、果実がポロっとすぐにとれてしまうこともあり、とても難しい作業です。児童からは、「針金を巻くところが難しかった」、「実がすぐにとれてしまうところが難しかった」といった感想が聞かれました。



▲ 袋かけの方法を説明する笠原さん



▲ 袋かけ作業を終えた ル レクチエ畑



▲ ご褒美の「越後姫」を味わう児童たち



作業後には、白根グレープガーデンのご厚意で新潟県のブランドいちご「越後姫」の食べ放題がプレゼントされました。児童たちは、「甘くておいしい」「頑張って作業してよかった」と笑顔を見せていました。

秋の「ル レクチエ」収穫も楽しみですね！

加工用米等取組計画の変更手続きについて

主食用米等から加工用米・新市場開拓用米・米粉用米等への
切換えを希望する場合は取組計画の変更手続きが必要です！

当初届出した加工用米・新市場開拓用米・米粉用米等の
取組計画数量を増やすことができます。

■ このような場合は変更手続きが必要です

- ・ 新たに加工用米等の出荷・販売契約を締結した
- ・ 加工用米等の出荷契約・販売先が変更になった
- ・ 取り組み内容に変更・追加が生じた
- ・ その他、届出した内容と実態が異なる場合 等



■ 手続きの流れ

- ① 変更内容の確認
- ② 実需団体等との契約数量の追加・変更内容の合意
- ③ 変更・関係書類の提出
- ④ 審査・内容確認
- ⑤ 変更手続き完了



■ 提出期限 **令和 8年 8月20日(木)まで**

※下記のお問い合わせ先まで、早めのご提出をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

北陸農政局 新潟県拠点 地方参事官室 需給担当

電話：025-228-5290

Email：niigata_keieisyotoku1@maff.go.jp

受付時間：平日 8:30～17:15

変更等が生じたら、まずはご相談ください！

「夏の熱中症等対策声かけ期間」が始まります

近年、夏季の高温化に伴い農作業中の熱中症リスクが高まっていることを踏まえ、農林水産省では7月1日～9月30日を熱中症等対策声かけ活動の強化期間に設定しました。

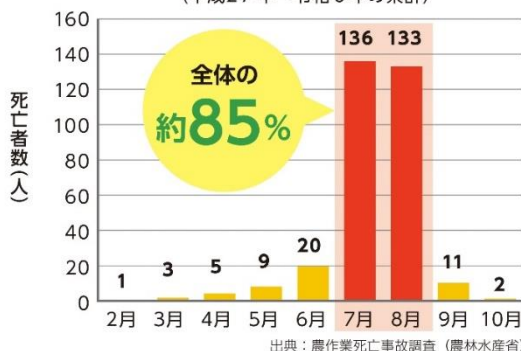
7月から9月は 夏の熱中症等 **声かけ** 期間 です!

農作業中の熱中症等による死亡者が急増しています!

このうち、約85%が7～8月に発生しており、非常に熱中症リスクが高くなっています。

熱中症事故は、周りの人がお互いに気を配り、声をかけ合うことで、防げる可能性があります!

農作業中の熱中症による月別の死亡事故件数
(平成27年～令和6年の累計)



声かけ活動のポイント

家族で



作業前後だけでなく、作業中もこまめなコミュニケーションを

- ☐ 「水分、持った？」
- ☐ 「体調が悪くなったら、すぐに連絡して」

職場で



その日の体調や暑さに応じて柔軟な声かけを

- ☐ 「顔色わるいよ、休憩しよう」
- ☐ 「WBGT 値が高いから、昼は作業を中断しよう」

地域全体で



顔を合わせたら、まず一声声かけを

- ☐ 「今日は熱中症警戒アラートが出てるよ」
- ☐ 「夏は疲れやすいから、高い所も気をつけて」

キャッチ
フレーズ
は

「いのちをうばう、 夏のひとり作業」



今年も「モ〜っとミルクちゃん」が津南ひまわり広場に参上！

7月24日から8月16日まで
津南町の「津南ひまわり広場」
で開催されるかかし展示に、
新潟県拠点畜産担当が制作する
「モ〜っとミルクちゃん」が
今年も登場します。

牛乳の消費が減少する夏休み
期間中、「モ〜っとミルクちゃん」が
ひまわり畑の中から、牛乳の消費
拡大をPRします。

魚沼方面へお越しの際は、ぜひ「津南
ひまわり広場」にお立ち寄りいただき、
「モ〜っとミルクちゃん」
を探してみてください！



▲ モ〜っとミルクちゃん



令和6年



令和7年



どんな
デザイン
になるか
お楽しみに！

令和8年



▲ 津南ひまわり広場へのアクセス

編集後記

今月号の表紙写真は、小千谷市・山本山高原のそば畑です。有機農産物の生産者である「イチカラ畑」さん取材した際に撮影しました。取材当日は青空と一面に広がる真っ白なそばの花のコントラストが美しく、爽やかな風景が広がっていました。

「イチカラ畑」さんの有機農業の取組や農業にかかる想いについては、情報かわら版8月号でご紹介する予定です。どうぞお楽しみに。



▲ そばの花

お問い合わせ

北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「**農業施策の〇〇について聞きたい。**」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

